

令和6年度 第1回 和泉市医療と介護の連携推進審議会 会議録

会議の名称	令和6年度 第1回 和泉市医療と介護の連携推進審議会
開催日時	令和6年9月4日（木）午後1時30分から午後3時まで
開催場所	和泉市役所庁舎別館3階 3-1会議室
出席者	【委員】 永田会長、高橋副会長、上嶋委員、北野委員、竹内委員、上原委員、川井委員、迫田委員、中委員、吉田委員 【事務局】 吉田副市長、西川部長、奥野室長、田山課長・西村総括主幹、勝田総括主査、廣瀬主査、石田主事、渡辺コーディネーター
会議の議題	1. 令和5年度第1回和泉市医療と介護の連携推進審議会振り返り 2. 令和5年度の活動報告と令和6年度の活動計画案について 3. その他
会議の要旨	事務局から各議題の説明を行い、その内容について質疑応答、確認及び意見を受けた。
会議録の作成方法	☐ 全文記録 ☒ 要点記録
記録内容の確認方法	☒会議の議長の確認を得ている ☐出席した構成員全員の確認を得ている ☐その他（ ）
その他	会議公開
審 議 内 容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）	
事務局	令和6年度第1回和泉市医療と介護の連携推進審議会開会
副市長	開会の挨拶
事務局	本審議会の委員に変更がございましたのでご紹介させていただきます。（新委員紹介） 本来でございましたら、市長より委嘱式を行わせていただるところですが、時間の都合上、委嘱状を机上に配布させていただいておりますので、よろしくお願いします。 では、本審議会の委員の皆様のご紹介をさせていただきます。（委員紹介）続きまして、本日出席の事務局職員を紹介させていただきます。（事務局紹介） 次に、本日のご出席状況でございますが、委員総数13名に対し、和泉市医療と介護の連携推進審議会規則第5条に規定する出席委員過半数以上の要件を満たしており、会議が成立することをご報告申し上げます。さて、本審議会では、「公開基準」に基づきまして、一般公開をしております、会議の要旨を市のホームページに掲載いたします。本日につきましても傍聴を認めておりますが、傍聴希望者がおられませんので、このまま進めてまいります。 議事進行につきましては、審議会規則第5条の規定により会長が進行することになっておりますが、前会長が委員を退任され、現在空席となっておりますので、会長及び副会長

	の指名につきましては事務局で進めさせていただいてよろしいでしょうか。（異議なし） それでは、会長及び副会長の指名についてですが、和泉市医療と介護の連携推進審議会規則第4条の規定において、審議会に会長及び副会長各1名を置き、委員の互選により定める、となっておりますが、いかがいたしましょうか。
A委員	以前から会長を和泉市医師会の先生に、副会長を大阪介護支援専門員協会和泉市支部の方に就任いただいております経過もありますので、永田委員と高橋委員にお願いしたいと思います。（異議なし）
事務局	では、会長職を永田委員、副会長職を高橋委員にお願いいたします。 それでは、本審議会会長の永田会長に一言ご挨拶をお願いします。
会長	はじめまして、和泉市医師会の永田でございます。皆様のご協力を得ながらこの審議会がスムーズに運営できるよう努めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。 それでは、次第に沿って進めていきます。 議事1「令和5年度 第1回 和泉市医療と介護の連携推進審議会振り返りについて」事務局より説明願います。
事務局	議事1 「令和5年度第1回和泉市医療と介護の連携推進審議会振り返りについて」説明
会長	ただいまの説明につきまして何かご質問、ご意見等ございませんか。（質問意見なし） では次に、議事2「令和5年度の活動報告と令和6年度の活動計画案について」事務局より説明願います。
事務局	議事2 「令和5年度の活動報告と令和6年度活動計画案」について説明
会長	ただ今、報告・説明のあった内容について、何かご質問等ございますか。特に、事務局より資料4・資料5についてご意見をいただきたいとありましたので、これについてご発言をお願いします。
B委員	資料3-7の地域住民への普及啓発で、地域出張型在宅医療セミナーにご参加されている年齢層について教えてほしい。
事務局	今年度と昨年度は大体70歳前後が多いです。80歳以降の方もいます。
会長	若い人は何歳ぐらいですか。
事務局	65歳以降を対象にしています。
会長	市民フォーラムの年齢制限はされていますか。
事務局	市民フォーラムでは年齢制限はありません。若い人にも来ていただき、考えていただくことが大事だと思っております。
C委員	フォーラムはどれも意義があると感じます。例えば、映画で大切な人の未来について考えること、あと認知症フォーラムでは、若年性の家族会では切実な声を聞かせていただきました。「もしもの時」という今年2月に行われました人生会議についてのフォーラムは今から考える備えとして、実体験を交えて話を聞き、いい経験ができたと思っています。あと、和泉市の高齢者実態調査があったと思いますが、市民の声を聞く良い取り組みだと思いました。若い人が参加できないのかなと考えています。先日、男女共同参画の社会づくりというフォーラムみたいなものがあり、これからの介護や家族介護についての講座を開

	かれていました。（和泉市では）医療と介護の連携推進フォーラムの内容は、男女共に介護する時代であるが、独居の老人がすごく多い。そのような人たちも含めて人生会議の説明や窓口の必要性・方向性をどうすればうまく理解してもらえるかということに焦点を当てておりますが、今回受けた講座では、家族構成が多様化し、広い範囲で男女ともに介護する時代としてとらえ、地域包括や障がい福祉など多重ケアについて窓口を一本化にする取り組みについて話していました。3年前だと思うのですが、和泉市にも重層的支援整備事業があり、シングルケアラー・ワーキングケアラー・ダブルケアラー・多重ケアラー・ヤングケアラー、そういった色々なケアラーの問題に対して、この医療と介護の連携推進も国からも補助がついていますし、窓口一本化という取り組みができないのかなと思いました。このことは本当にこれから先の日本の社会現象になりもっともっと先駆けて考えていけないと思いました。今私たちが取り組んでいる医療と介護プラス多重ケアの部分について、和泉市の今後の考えを聞きたいです。この重層的支援体制整備事業に関してはどのように取り組みをされているのか、お尋ねしたいです。
事務局	重層的支援事業につきましては、今は少し立ち止まって色々なところを再検証しているところです。縦割り行政というのがまだ続いており、その辺りにも課題があります。ただ、しっかりとやっていかないといけないと考えています。
C委員	実際、和泉市でも一人親であるとか、色々な問題が周りで多発し、それが普通になっている時代です。男女ともに介護する時代で、（介護する人の）3人に1人が男性という現状があるらしいです。そのようなときに市に（介護する人たちに）寄り添うことができる相談の窓口があってほしい。この取り組みは本当に大変だと思いますし、医療と介護の連携の中で、障がい福祉の方との連携等縦だけでなく横にも繋がりを持っていかないと感じます。私は親を亡くしまして、色々な手続きをするため、和泉市に相談したら、ここの専門分野はわかるがこれに関しては他市で聞いてくださいということもあり、市をまたいで相談したこともありました。素人なので、いろんな窓口があると本当に困り、これはもうやっぱり窓口1つの方がいいと感じ、医療と介護が連携することは大事だと思います。あと、資料5のテーマの次回のフォーラムについてもう少し説明していただきたいです。まだ検討中ということですが、当事者家族や専門職からの課題についてパネルディスカッションで答える企画はすごくいいと思います。市長または副市長や専門職は、当事者家族として一応仮定して入れていただくということですか。
事務局	こちらは検討段階です。専門部会で案として出て、まだ確定はしていません。ただ専門職でも当事者になる可能性もあり、現実問題、戸惑いがあるということも話に出ています。その部分を市民の皆様にお話しすると、少しでもご自身のことであると考えやすいかなと思っています。市民がパネリストとして登壇いただく案は今のところ出ていませんが、一般市民の方で登壇して頂ける方がいればいいというご意見があれば、それを含めて今後専門部会で検討していきたいと思っています。
C委員	一般市民が発言できるのは貴重な機会だと思います。私は自分の体験から、当事者家族で市民が参加するとリアルになりすぎて専門の方が答えにくい状況や個人情報扱うことになるので難しいのかと思いました。でも、やっぱり市民は窓口でどのように説明し、どのような流れで進むのかなどレジュメを作って寸劇のようなものと事前計画の用意が

	あれば、市民は疑似体験をできてわかりやすいのかなと思いました。次回のフォーラムは、この審議会の集大成になるのかなと思っていて、すごく期待を寄せています。例えば、「胃瘻しないといけません。」ってお医者さんに言われた時に、胃瘻するともう元に戻せないのかなとか、素人は色々なことを考えますよね。でも、専門の方だったらきっと他に鼻から入れる方法や中心静脈があるなど栄養をとる方法がいっぱいあると知っていますが、その家族の状況を詳しく知った上で、今できることをきちんと説明してもらえるいい機会だと思います。そういう色々な専門の先生に当たらなくても、そういう的確なアドバイスを受けられたらいいと思います。例えば、入れ歯を失くしてしまった、壊れたがもう寝たきりで入れ歯を作れないことが起きるとご飯を食べることができなくなり、どんどん痩せ細っていく状態になり寿命が縮まっていく。そうではなく寝たきりでも訪問歯科で入れ歯を作ることで、食べ物の形を見て味を感じて食べられることで元気になってさらに食欲が出て栄養のバランスも取れるようになるような前向きな方向性でアドバイスしていただきたい。横の連携など様々な連携をして色んな専門の方のアドバイスが受けることができるそんなフォーラムにしていだけたらありがたいなと思います。
会長	一般の方が実際に経験談をフォーラムで話すことをご希望ということですか。
C委員	一般の人が話してしまうと少しリアルになりすぎると思い、専門の方も答えにくいと思いますので、専門の方で構成されたものでいいです。副市長も以前、体験談を教えてくださいましたでしょ。あれはすごくリアルでお話して下さってすごいと思い、共感を持ちました。ただ、実体験を話すことや相談したことを一般に公開されるっていうのがどうなのかなって思いました。
会長	希望では実体験の方が分かりやすいということですね。だからその部分も考慮して内容を考えていうことでお願いします。質問コーナーも昨年度と一緒ですか。
事務局	同じです。
会長	その辺り考慮してお願いします。他にないでしょうか。手帳についてはどうですか。
副会長	人生会議メモやフォーラムの意見を聞いた上で考えていました。C委員のご意見を聞いて、すごく考えて行動されていて感心しました。僕が最初にこの人生会議の件で話を聞いた時にまず思い浮かんだのは、そもそも人生会議ってなんだろうとか、何のためにするのだろうとも思いました。だから、そのことをまずは知ってもらうところが大事なかなと思います。個別の具体的なケアの仕方とか終末期にどんな治療を選ぶのか、どんな介護ができるのかという具体的な症例の前段階の話かなと思っています。具体的な方法ではなく、なぜ今、最終段階のことを考えなければいけないのか、人生会議でどんな内容を話し合うべきか、どういう心構えができるのか、その時にどんな選択肢が出てきて迫られるのかという意思決定について、伝えたい時に伝えられなくなるということが起こりうるので、前もって考えるというようなことを知っていただくことを伝えるのが大事ではないかと思っています。もしかしたらもっと初期的な話だと感じています。例えば、台風が来るぞってなった時に、その対策・耐震工事を家にしていますか、のような話があるとします。来るかもわからないし、お金がないからやりませんという選択肢もあれば、対策をしなかった時に地震が来て、どんって家が壊れたときにどうするのか、どこに居てどんなような

	生活するのかというような話が出てくると思います。そうなる困るということもありますよ、それでもいいですか、そうなるのは困るから事前にどんな対策ができるかを前もって決めておく。壊れるかもしれないので少しでもその傷を減らすことや地域で過ごしたいことであれば、家の耐震工事という方法を提示する。また、もし壊れた時に親戚の家に逃げるのか、どんな生活できるのか、困った時の選択肢や考え方を前もってみんなで考えて備えておこうという心構えの啓発になると思います。私関係ないよって言う人もいますが、もしかしたら来るかもしれないと思ってみんなで考える、何を考えたらいいいのかを知っておくことがまず必要かなと思っています。 個人的な意見で皆さんに検討していただけたらと思いますが、この人生会議メモの案を見た中で、基本情報の部分でメールアドレスとかSNSのアカウントのパスワード、携帯電話のパスワードなどの項目を中に入れ込んだりするのはどうかと思っています。ただ、すごくデリケートな情報が含まれすぎて、悪用された時の問題も出てくるとは思いますので、十分ご検討いただけたらと思います。この間ニュースで見た時に、ある方が亡くなって発見されて、身寄りの方に電話しようと思ったが、携帯電話のパスワードが開けられず、誰に連絡していいかわからない状況になった。この時家族は海外に出張へ行って、全然連絡が取れず家族が帰国した時にはもう死体が焼かれている状態であったと、そしてそのような件がどんどん増えてきていて問題となっていることを取り上げられていました。人生会議メモでいざという時に どんな情報を誰に伝えないといけないのかということ項目に入っているだけで考えることを意識することができると思う。デリケートな部分で難しいから、書かないという選択肢があっているのです。このことが問題になることを知っていただきために、何を情報整理しないといけないのかを示すことができる、マップとして使えればいいのかと思います。そういういざという時の備えてどんなことが発生するのかっていう啓発になるような資料をもらえば良いのではないかなと少し考えました。
会長	このご意見に対していかがでしょうか。携帯のパスワードですか。
副会長	そうですね。ただ、亡くなって発見され、携帯があるから救急隊がそれで連絡しようと思ったがパスワードを解除できないことがあって、誰に連絡していいかわからないことがあり、パスワードを書いてくれている方がいいのですが。お亡くなりになられてから、SNSアカウントにその人が生きているかのようにメッセージが入り続けるみたいなことを良しとする人もいれば、それが辛いという人もいます。それで最後にアカウントを処理するとパスワード分からず中に入れないことがあります。若い人も含めて啓発するのであれば、将来そういうのも出てくるだろうなと思いました。
会長	一般市民の方は人生会議を理解されているのですか。
事務局	実際あまり普通の人には知らないかと思います。
会長	別の名前や「あなたはどうか生きるか」のような分かりやすいサブタイトルがあればいいと思う。「第1章 私のこと」のなかで「今のわたし」という欄があってもいいと思った。そのような欄があれば、今をどう生きているのか、これからどう進んでいくのかを何となく寄り添っているような気がする。
B委員	すごく気になっているのが、この人生メモ見た時に、「よしやろう」って思えるか、「う

	ん、ちょっと待ってね。重たいよね。」、もしくは「何これ。」と思うかも。おそらく、1番大切なのは自分の心持ちだと思います。僕は、その市民さんがどこまでそれを考えているかが気になる。和泉市には「和泉市民を中心とした医療と介護の連携推進条例」といすごくいい条例があります。条例なので、規則よりも高い位置にあるものですよね。これは和泉市の強みだと思っています。市民の責務や役割があると思いますが、役割として定期的に健康診断や検査を受ける、医師もしくは薬剤師にかかりましょうやお薬手帳を持ちましょう、ボランティア活動して自分たちの健康増進に努めましょう、信頼関係作りましょうが役割。この役割について実際に市民が理解できているのか、浸透度ってどうなのだろうか気になる。これが初めて機能するのが、先日のシンポジウムのディスカッションで副市長が話していた「退院カンファレンス」だと思います。介護保健事業計画はもちろん現状把握や取り組みを伝えること、これからの目標を記載し周知するものであるが、今後このようなものを策定するにあたり、全世代ってというのがすごくキーワードだと思います。僕もこの世代なので、そういうのを実際に見た時にSNSを使おうよとなると思う。実際に僕も和泉市のSNSを見た時に、広報いずみのアプリが2019年3月からアカウントを開設、YouTubeのチャンネル登録者数1910人程度で、令和5年度の2月9日に行われた「もしもの時の」フォーラムの視聴回数は6か月前にアップされていますが、169回です。若い世代の方の興味があれば、もしかしたら再生回数が上がるかもしれません。あと、インフルエンサーの使い方も大切だと思います。若い世代の方を取り込むためのSNSの使い方、インフルエンサーの使い方、興味持てるものをどう提案していくかっていうこともすごく大事だと思います。アップすることは大事ですが、それに興味持てる材料がすごく必要だと思っています。どの会議でもうちの和泉市には条例があることを様々な場面で伝えていってほしいなと思います。この介護保険事業計画の枠ではなく、市民の役割の理解を、マインドを定着化させるために、講話等で少しずつだして、市民はこういう役割ある、我が事として考えようとの場面にも普及してほしいなと思います。 色んな世代に健康増進のためにアプローチをかけていく必要があることを以前おっしゃっていたので、知っ得講座も高齢者に限らず枠を超えて、その前の世代の人たちにアプローチをかけていく必要があると思います。あと、条例自体も平成25年（2013年4月）に制定されまして、もう10年経ちます。前期高齢が後期高齢になっています。和泉市の人口動態の統計図見ていただいたら大きく変わっていますので、ここの辺りもやっぱり1つ刷新というか、条例の位置付けは僕もわかりかねるのですが、合わせて連動して何かの会に提示できると若い世代にも普及できるじゃないかなと思っています。
会長	全世代型のACPということで、まず若い人を引きつけるには何かありそうな感じですね。どのような進展をするかわからないが、まずは言っていることを理解してくれるかどうか大事だと思う。理解してもらえ人を巻き込んでいかないといけない。中学校の生徒会あたりにフォーラムを宣伝するとか学校でもポスターが貼ってあるといいと思う。
D委員	このフォーラムに関して、市民さんから事前質問をお受けされるのでしょうか。
事務局	昨年度はしなかったですが、申込みを受けるときにお伺いすることは可能かと思いますので、その辺りは検討できるかと考えます。
D委員	私は訪問診療をしていて、サービス担当者会議とか色々な会議に出席したときに、家族

	さんから同じような質問をされることが結構多いです。やはりこのようなフォーラムで、手を挙げて発言されるというのは勇気がいると思います。できればそういう質問などを事前にお受けしてあげますと、きめ細やかな対応ができると思います。
会長	この本番の基調講演はどんな感じのスケジュールですか。
事務局	昨年度は基調講演が30分以上で、第2部・第3部のパネリストの話と市民とのディスカッションのところがタイトになったという経緯があります。それを受けて今年度は、基調講演を体験談という形に変えて、パネリストの時間配分を増やし、また第2部の市民との座談会の十分に時間を取りたいと考えています。
会長	昨年度はどなたがどんな話をされたのですか。
事務局	滋賀県大津市で人生会議について進めておられる医師に基調講演をお願いしました。人生会議のスライドであるとか実際に行っているところなどの具体的なお話でした。また、フロアディスカッションでは専門職を交えて質問をしながらやり取りをして、少し自分事として考えられた参加型のフォーラムだったと思います。
会長	楽しみにする話もできればいいかなと思います。基調講演の時間はどれくらいですか。
事務局	15分程度というところでしょうか。若い世代にも来てもらえるようなところを専門職も含め考えていきたい。
E委員	全世代的な方向という話で、確かにうちの親も80才超えてきていますが、親父にもう人生の最終ステージというのは言えると思いますが。そうじゃなくて、やっぱり自分事として、自分がもし最終ステージになったらっていうことを考えて、自分がまず人生ノートを書かないといけないと思ったのが1点です。 あと、その全世代的というところで、高齢介護室だけでは限界があるところが、やはり縦割り行政の弊害なのかなって思っていて、今ここで全世代的にと言っても限界があるので、そこは市の方で、他どういう部署を使って若い世代にACPを広げていけるのか、ACPを自分事として考えていける方向に持っていけそうなのかというところが、もし何か思うところがあれば、教えていただきたい。
事務局	全世代型というところが事務局でも大きなテーマになっています。まず、PTAなどの学校教育の現場からお声がけをしていきたいと話しているところです。学校教育の方の現場やPTAからすこしずつ啓発し、会長が言われた通り、うまくいけば中学校の生徒に広げるなどロードマップを描いていけたらと考えております。
F委員	現場で働いていると、医療の意思決定というところで時々利用者さんとお話します。本人、特に疾患を持っている方は考えたくないという現状もあり、なかなか話が進まないことがあります。自分自身も勉強にエンディングノートを書いてみようかと思いましたが、なかなか進まなかった。ただ、考える機会として、フォーラムや書面など形から入るのも必要かなと思います。実際これを書いても普段見えないところに入れていると分からないですし、その部分も今後どうするか考える機会として、書面や場所の提供ができればいいと思います。
会長	そうですね。現場では、事前に何もしないと決めていても最終的になんでもしてほしいと言われる人もいます。あくまでも計画なので変わることはあります。元気な時から知っ

	ておいてもらうことが大事ですね。
G委員	大学では全学部ではなくて、福祉に関連した学生に対してはACPを授業の中でします。それを他学部で唐突に「人生会議、皆さんやりませんか？」と言っても多分誰も反応してこないと思います。授業の一環としてこの流れで意識してくださいという話をすると学生は一生懸命考える。他の学部の学生に対してできるかというとなかなかできないと思っています。 もうひとつは、医療と介護の連携推進条例を作成時から参加して、それぞれの役割をきちんとひとつひとつ入れてきた経緯がありますので、それぞれの役割について今の時代に沿っているのかどうかももう一度見直すほうがいいという意見もあり、私ももう一度見てみようと思いました。
会長	ACPIは大学生に受けが悪いですか。
G委員	福祉関係の学生は流れのなかでACPを紹介し、みんなでやります。
会長	一般の大学生はどうですか。
G委員	「ACPありますよ。集まってください。」という、その日バイトが忙しいなどと言って断られると思います。
C委員	家族以外の周りの人たちが支えられる環境というのは1番素晴らしいなと思いますが、私が以前、男女共同参画で参加しました、「これからの家族介護」というテーマの内容に若い人たちが参加していたのです。すごく興味を持たれて、次回このような感じの講座は他にないのですかと聞いていました。興味のある人は自分の親のことに周りのことに目を向けて、勉強しておきたいと自分事のように考えている。このような会議以外にもどうしたら気づきのない人たちに興味を持ってもらえるかというのが大きなテーマだと思います。例えば、今、市の方でやっている、子供たちに車椅子の体験してもらうことやアイマスクをつけて、目の不自由な人の実体験をしてもらう取り組みから思いやりの心を学ぶ機会だと思います。皆さんがすごく色々な立場でどのように啓発していけば子供たちや若い世代が興味を持ってもらえるかその内容が納得いくものになるか。この人生会議メモが固いものではなく、普通に書くことができる、将来もっと楽しいイメージで受け取れて安心して記入できるようなものになったらいいなと思います。
会長	今度のフォーラムでは非常に課題がたくさんありますね。手帳に関しましては分かりやすくシンプルにする方がよいと思いますので、よろしくお願いします。 それでは、議事2「令和5年度の活動報告と令和6年度の活動計画案について」の審議を終了いたします。続いて議事3「その他」について、他委員の皆様から何か連絡事項などありましたら、お願いします。ないようでしたら、事務局にお返ししたいと思います。
事務局	永田会長、委員の皆様、長時間にわたりご審議を賜りありがとうございました。 最後に、副市長の吉田よりお礼のご挨拶を申し上げます。
副市長	副市長の吉田康人でございます。最後に、市長に代わりまして、御礼のご挨拶を兼ねて、今日の総括をさせていただきたいと存じます。今日は主に今の計画の進捗管理ということをご議論していただきました。その観点から、まず1つ、目標設定には活動指標と評価指標というのが今日の資料をご覧くださいと書いてあるのですが、市民の立場から言う

と大切なのは、行政で色々活動するのはわかりますが、結果どう出すのかが評価指標の向上なのですね。ただ、その3年計画ですので、それを途中で評価して、ちょっと進んでないな、後半頑張ろうということを言うにはなかなかその短期の計画すぎる部分があります。それについても、今後も3年経過でいいのかどうかというのは今議論をしているところでございます。

次に、重層的支援以外の連携どうかというご質問もございまして、それは課長が先ほどお答えした通りなのですが、補足いたしますと、重層につきましては行政の計画としては、今年度計画を練って来年度から全面的にいかないにしても一部でも実施していくというスケジュール感でございます。今やるとしても、どれぐらいの規模でやっていくかという分野という単位のことについてやっていくかで、現在、重層的な支援は私たち行政はやっていないわけではなくて、いろんな縦割り行政が重層的に連携しています。そういう多元的にやっていく部分と重層的支援というくくりで一元的にやっていく部分とどういう仕分けしていくのがいいのかを議論しているところでございます。

医介連携につきましては、医師会長の永田会長ですね、まさしくこの審議会を中心にマネージメントをしているところでございます。あとはもうずっとACPの話になったわけですが、永田会長から市民の関心どんなもんですかねっていう質問もございまして、先日のシンポジウムでも一部触れさせていただいたのですが、簡単に言うと市民の関心は意外と高い。ACPということはご存じないのですが、終わりの場面について家族と話し合ったことがありますかということについては、3〜4割ぐらいの市民が「ある」と答えて、特に最若年層についてはその関心が高いことが分かりました。分析は終わっていませんが、会長がいつもおっしゃるように、やはり教育は大切なという風を感じております。今後のイベントや行事の企画にあたってもそういうことを念頭に置いてやっていきたいと思っております。フォーラムについてもたくさんご意見をいただきました。永田会長や上嶋会長から、やっぱり一般市民の目線で事前に声を聞いたらどうかというご提案もとても大切だと思います。市長、副市長って書いてありますけど、もし万が一指名されたら、介護とか介護に至る前のプロセスの経験者として役割を果たさせていただきたいという風に考えております。それから、人生会議メモについてもたくさんご意見をいただきました。うちなんかはですね、どちらかというと人生会議へ持っていけないということで悩んでいる過程です。その辺りも意識していかなければいけませんし、永田会長がおっしゃっているのと同じ趣旨ですが、人生会議をするということが前提のこの人生会議メモになっているので、話が被りますが、なんで人生会議やねんっていう人たちに対しても訴求力のあるこの人生会議メモを作っていないといけない。もう一方の考え方として、議論はいつまでたっても尽きないので、一旦議論を終結させて、まずは使っていき、実際やっていくうちにそこへ至らないことも出てくるだろうし、やってみたらこんな不具合がありましたというケースも出てくると思います。そういうことを踏まえて修正していく。うちの部長もなんかよくバインダー式で加えられるようなものにしたらどうかと話をしますが、そういうこともメモを作る上では念頭においてはどうかと思っております。社会環境への介入、ポピュレーションアプローチというお声もございましたが先日のシンポジウムで市長から、そこをやっていくと力強く宣言したところでございます。もう永田会長から

	は、もう再三再四、やはり教育であってという課題をおっしゃっていただいております。北野先生もおっしゃる通り、全世代が自分ごとに考えてもらうというアプローチも必要だと思っております、これは来年度へ向けてやってまいります。最後に、やっぱりACPって関心あるっていう入口で入ってしまうともうそこでシャッターを降ろされてしまう。今考えているのが、なんかこう気が付かないうちにこう巻き込まれると申しますが、自然とこう学ぶ仕組みっていうのが必要なと思っております。それを私「戦略的な広報」と呼んでいますが、最近その議論も出始めている事例もございますので、そういうことを活用してしっかりとやっていきたいと思っております。重複になりますけれども、和泉市のこの医介連携のマネージメントはこの審議会を中心に担っていただいていると思っておりますので、なかなかこの会議で収まらないことについては、例えばですけれども、書面でですね、ご意見をお伺いするような場面もあると思いますし、実際フォーラムへ来ていただくという場面もございますが、引き続きご尽力を賜りますように最後をお願いを申し上げまして、私からのお礼のご挨拶とさせていただきます。本日も誠にありがとうございました。
事務局	これをもちまして令和6年度第1回医療と介護の連携推進審議会を閉会とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。
	閉会